日本農業気象学会 2013 年度第 2 回理事会議事録

日　時：6 月 8 日 (土) 13:00~17:00
場　所：東京大学農学部 7 号館 A 棟 7 階セミナー室（東京都文京区弥生 1-1-1）
出席者：大政謙次、小林和彦、小沢　聖、広田知良、菅野洋光、鳥谷　均、宮田　明、林　真紀夫、
富士原和宏、皆巳幸也、町村　尚、荊木康臣、脇山恭行、横山　仁、石郷岡康史、
杜　明遠、細井文樹、平野高司、沖　一雄、松島　大、間野正美、中屋　耕
欠席者：なし

［議事録・議事要旨確認］

1. 2013 年度第 1 回理事会議事録報告（資料 1）（荊木 総務理事）
   訂正等がある場合は、荊木理事へ。次回までに指摘事項がない場合は確定とする。
2. 2012 年度評議員会、2013 年度総会の議事要旨確認（資料 2・3）（荊木 総務理事）
   承認された。

［報告・連絡事項］

1. 編集委員会報告（資料４）（中屋 編集理事）
   ・6 月 1 日に編集委員会が行われたとの報告がなされた。
   ・論文審査について以下のような報告があった。
   ①69 巻 3 号に 12 報、69 巻 4 号に 10 報程度を掲載予定であり、審査中が 16 報。
   ②69 巻 2、3、4 号を SCI 登録審査用に提出する予定である。
   ③70 巻 3 号を部会特集号とする予定である。
   ④「生物と気象」は、5 月 27 日現在 1 報掲載し、審査中 3 報。論文以外では、支部会報告 1、部会報告・受賞講演が審査中。
   ⑤大政会長から、SCI 登録に向けた論文掲載数の平均化の必要性に関して質問があり、平野編集委員長から、早く掲載したほうが論文が集まるのではないかと考えているとの返答があった。
   ⑥SCI 登録に向けての経過をホームページに掲載してはどうかとの意見が出され、ML およびホームページで投稿を呼びかけることになった。
   ⑦ISAM2012 からの論文の状況に関する質問があり、松島理事より、5〜6 報の投稿があり、既に 4 報は掲載されたとの報告がなされた。
   ・Journal of Agricultural Meteorology を英文誌化するに当たり「論説」が削除されたが、「論説（Views and Opinions）」を希望する投稿があったため、Others として受け付け、内容に応じて論説カテゴリーの復活も含めて編集委員会で判断するとの報告があった。
   ・SCI 登録に向けた作業について以下のような報告があった。
   ①丸山編集委員が特任で担当する。
   ②Journal scope と Unique features distinguishing this journal が必要である（審議事項）。
   ③J-STAGE では和洋混在誌で登録されているが、SCI 登録にむけて、対応が必要である（審議事項）。
   ④SCI 登録には学会誌 Web ページが国際誌としての要件を満たしていることも重要であり、J-STAGE からのリンク（ジャンプ）先の Web ページの整備が必要である（審議事項）。
   ・来年度 ISAM を利用して、投稿論文を増やす方法を検討しているとの報告がなされた。

・Advisory Board（裏表紙）のメンバーの確認を理事会で行ってほしいとの提案がなされ、外国人メンバーの確認を関連する各理事にお願いすることにした。日本人は編集委員会で所属を確認することになった。
・著者への別刷無料分について、2010 年の編集委員会で決まっていたが連絡が不十分なまま今まで発送しており、中止にすることにしたとの報告がなされ、養賢堂にも連絡したとの報告がなされた。

２．農業環境工学フェデレーション会議の報告（資料５）（小林副会長）
・代表幹事が、岡田前会長に交代し、次の大会は、日本農業気象学会が担当することになる（2015 年 9 月於盛岡）との報告がなされた。
・フェデレーションの覚書についての説明がなされた。覚書に関しては、当学会は「同意」済みであることを確認した。

3. 日本農学会関連報告（資料６）（横山 庶務理事）
・シンポジウムテーマの募集についての説明がなされた。（審議事項とする）

4. 日本農業工学会関連報告（資料７）（大政会長）
・大学教育の分野別の質保証の基準化に関しては、荊木理事が協力することになったとの説明があった。
・本年度の本学会からの代議員は細井会員（東大）、国際代議員は星会員（近畿大）であること、および、当学会から推薦した青木会員がフェローの称号を付与されたことが報告された。

5. 2013 年の北陸大会報告（資料 9）（皆巳理事）
・資料に従い、以下のような報告がされた。
①大会運営マニュアルを作成した。
②金沢市の補助金（内定）が取り消され、他の財源でアルバイト料の支払いを済ませることで対応した。
③インドネシアの実在の会社から５人分（発表なし）の VISA 申請に関する申し出があったが、検討のうえ断った。
④新評議員が誤って出席したため、評議員会で弁当と資料が足りなくなった。今後は出席者区分を明確にする必要がある。
⑤開催報告の概要を『生物と気象』に報告することを予定している。
・金沢市からの補助金が取り消されたことを受け、学会への補助金（大会運営費）の返却額を 150,000 円とすることで、財政的な補てんを行うことが了承された。
・総合口座の開設に関する提案があったが、開設は難しいのではないかとの意見が出た。
・今後の検討課題として
①演題・著者の変更があったため、共著者がポスター審査委員になってしまうような問題が起きた。対応（変更を不可にするなど）が必要かもしれない。
②要旨の J-STAGE 掲載について、荊木理事が担当で進めることになった。

6. 2014 年北海道大会の進捗状況について（資料 9）（広田理事）
・干場会員を大会委員長として、2014 年 3 月 17 日～21 日に、開催する予定であるとの報告がな

された。

・大阪大会・北陸大会を参考に経費の計算をしているが、予定していた会場が有料であるため、他会場も含め、経費の見直しを行っている。本部からの大会運営費を返却することを前提で進めると、会計が厳しいとの報告がなされた。

・他学会の開催とのバッティングはないのかと質問があり、重なるところもあるがやむを得ないとの報告がなされた。

・次回実行委員会は8月に行われることが報告された。

7. 関連学会の役員について各担当が報告された。（資料１０）（荊木 総務理事）

8. 2013年度の会計監査について訂正の報告がなされた。（荊木 総務理事）
彦坂会員と杉浦会員にお願いすることになったとの報告がなされた。

9. 今後の宇宙開発の体制の在り方に関する｛タスクフォース会合｝について（資料１１）大政会長より報告・説明がなされた。

・参加を希望される方は、積極的に参加していただきたいとの報告がなされた。

10. その他

・「日本農学８０年史」（2009 年）（日本農業気象学会部分執筆者：真木太一顧問）の電子化について承諾したとの報告がなされた。（荊木理事）

・6/18に学術会議講堂で、Future Earthのシンポジウムがあるとの報告がされた。（大政会長）

・地球惑星関連について石郷岡理事より報告があった。

①ジャーナルの発行について
科研費が採択され、ジャーナルの発行を進めていく予定であるが、当学会から編集委員を出してほしいとの連絡があったが、昨年からの流れで学会としては出さないことにしているとの報告がなされた。また松島理事よりレビュー中心のジャーナルになるとの補足説明があった。

②次年度開催は、パシフィコ横浜で4/28～5/2に開催。

③会場費が上がったことを踏まえて、参加費は16,000円（事前）、22,000円（当日）となる予定である。

・ 小林副会長より、韓国の済州島で11月4-7日にGlobal Federation of Agricultural Society Science コミュニティのミーティングが行われる見込みとの報告がなされた。WMO 農業気象小委員長のLee Byonglyol氏からの私信による。正式には後日報告予定。

・ 小林副会長より、インドネシアの農業気象学会に関する情報提供があった。

・ 協賛・後援についての報告がなされた。（資料１２）（横山 庶務理事）

［審議事項］

1. 編集委員会関連（資料４）（平野 編集委員長・中屋 編集理事）

・SCI登録に必要なJournal scopeとUnique features distinguishing this journalを編集委員会が作成し、次回の理事会で承認されるように進めることとした。

・JAMの言語の和洋混在について66巻以前を前身誌（Japanese and English／和洋混在）とし、67巻以降を後継誌（English）として登録することで承認された。なお、同様の実例が他の学会誌

にもあるが、実質上の問題は無い見込みである。

・J-STAGE からのリンクについて、学術誌の頁にリンクするようにしてほしいとの意見が出され、承認された。外注費用等に関してはホームページ担当者と検討していくこととなった。

・施設園芸もしくはリモートセンシングを担当できる編集委員を 2 名程度増員する。人選は、編集委員会で行い、次回の理事会で承認を得ることとなった。

・電子投稿システムで査読者候補を入力することができるので、5 名を上限に著者が推薦できるようにすることとした。

・投稿時に、共著者全員に連絡がいくようなシステムを検討することとした。

・ランニングタイトルは必要かとの問い合わせがあったとの報告があり、理事会としては継続することとした。

2. 理事の役割分担（資料１０）（荊木 総務理事）

・町村理事が英文誌企画（編集（企画））を担当することとなり、研究プロジェクトなどから積極的に原稿を集めてほしいとの依頼がなされた。（経費が生じた場合は、会計理事と相談して学会負担とする）

・林理事がエネルギーフォーラムを担当することになった。

・研究部会と支部活性化は、総務理事が担当することになった。

・大会運営は、前年度と今年度の開催支部が担当することとなった。（次年度開催支部担当者が決まったときにメーリングリストに参加）

3. 出版事業について

・経緯等について大政会長より以下のような報告がなされた。

①「農業気象の測器と測定法」改訂版ではなく、別企画が良いのではないかとの意見がある。

②学部生・現場を対象とし、現場レベルで役に立つものを作る必要がある。

③「農業気象の測器と測定法」は、宮田理事が企画担当する。

④学会からの補助 100 万円で 50 部を贈呈する方向で出版が可能であると、養賢堂より回答があった。

⑤まずは「農業気象の測器と測定法」の編集を進め、その後、「新しい農業気象・環境の科学」については、大政会長が担当となり、進めていく予定である。

・宮田理事より、「農業気象の測器と測定法」の過去の発行・内容等について資料（別紙）をもとに説明がなされ、意見を交換した（以下のような意見が出された）。

①改訂版の場合は、版権についての確認が必要。

②改訂版ではなく新たに発行する方法がよいのではないか。

③5～6 年前に原稿を集めて、発行されていない企画・原稿があった（富士原理事）。

・上記の議論を踏まえ、「農業気象の測器と測定法」を改訂版ではなく、新しいものとして企画・出版するものとすることになった。宮田理事を中心に、小林副会長、岡田会員の意見も聞きながら、進めていくことになった。

4. 2014 年北海道大会 ISAM の支援体制について

・現在の予算案について廣田理事より説明がなされ、学会からの補助金に関して協議した結果、以下のように決定した。

①補助金（大会運営費）の返却に縛られずに進めてよい。

②北陸支部からの補助金返却分として 150,000 円の返却を受け、その 150,000 円と本年度の予算として計上している 250,000 円を、北海道支部に補助する。
③次年度以降は補助金（大会運営費）を 400,000 円にする。
・ISAM に関して平野理事（編集委員長）から説明が行われ、意見を交換した結果、
①ISAM は継続することとなった。
②外国からの参加者については、ビザ発給の判断などは経験のある理事会のメンバーで対応をすることとなった。

5. 日本農学会シンポジウムについて（資料６）
シンポジウムテーマ募集について提案がある方は、荊木理事に連絡することとした。

6. 購読会員について（荊木 総務理事）
・購読会員より Journal of Agricultural Meteorology の発送停止の依頼があったことが報告され、その対応を協議した。その結果、来年度に退会を申し出される恐れがあるが、今回の件では、来年度も会費を請求することとした。
・今後、SCI 登録などの動きも踏まえ、現在行われている J-STAGE 上での無料閲覧の扱いを含めて、購読会員の位置づけを引き続き検討していくこととなった。

7. 第 3 回理事会について（資料１３）（菅野理事）
・日時、会場、スケジュールについて報告がなされた。
・理事会に引き続き、日本農業気象学会東北支部会主催シンポジウム、合同懇親会、研究発表会、東日本大震災津波被害地視察を行う予定である。

８．その他
・関東支部が担当する 2015 年大会について、宮田理事より以下のような報告がなされた。
①大会委員長は関東支部長、実行委員長は鳥谷理事、事務局長は宮田理事である。
②開催日は 3 月 17(火)、18(水)、19(木)を予定している。
③文科省研究交流センター（無料）を会場として考えているが、使用可能時間は 9:00～17:00 で、撤収は 17:00 厳守となっている。なお、筑波国際会議場は有料で会場費だけで 40 万になる。
④発表は、20 分×90 件または 18 分×100 件で考えている。
・会場、シンポジウムの開催、ポスター発表に関して、意見が交わされ、交通手段、宿泊施設ならびに懇親会場の確保に加え、シンポジウムの開催とポスター発表を行う場合の場所とパネルの確保を含めて、会場を検討することになった。